

1 所長による分析（業務運営の総括）

（1）特に重点的に取り組んだ事項

① 各指標に対する取組

仕事探しや求人情報検索を目的として初めてハローワークに来所した者に対して、相談窓口へ積極的に誘導し「プレ職業相談」を実施した。

フロアコンシェルジュ（日常的な声かけ）の更なる強化及び、職業相談窓口での丁寧な聴き取りとプラスワン紹介、求職者担当制に取り組んだ。

雇用保険受給者の早期再就職促進については、初回認定日の全員相談及び、給付制限の対象者は、給付制限中の呼び出し相談（初回認定日に呼び出し相談日を記載した個票を手交）を実施した。

再就職手当シミュレーションリーフレットを初回説明会時に配付し、早期再就職に係る意欲喚起に取り組んだ。

併せて、待ち時間でも求職者の目に留まるように、待合椅子の背面に早期再就職が有利である旨のリーフレット等を貼付し、早期再就職への意欲喚起を行った。

② 長期的な職員の資質向上に向けた取組

労働局職員に講師依頼して、就職氷河期世代の就職支援に関する研修を開催した。

労働基準監督署の職員に講師依頼して、労働基準法関係の研修を開催した。

（2）サービス改善・業務改善を図った事項

職業相談部門の職員・相談員は、窓口対応者が全員、職業紹介件数及び就職件数について、月ごとの目標を掲げ、日々の職業紹介件数及び就職件数を共働支援システム内に格納した「月ごとの一覧表」に入力することとで可視化し、個々のモチベーションをアップさせ、PDCA 管理の一助とするとともに、職務遂行意欲の向上に努めた。

求職担当者制についても、共有フォルダ内に各担当の管理表を作成及び、進捗管理させて、職業相談部門の責任者である統括官が随時確認し、必要に応じた助言・アドバイスをを行った。

求人充足については、条件緩和した求人票を「リフレッシュ求人」として求職者の目に留まるように、庁舎入口付近の壁面（屋内）に、

事業所の画像情報と求人情報を一緒に貼り出すとともに、持ち帰れるように配架も行った。

就活応援トレーニング（模擬面接の実施、応募書類の添削・助言）の個別支援も積極的に行った。

(3) 今年度見えてきた課題とそれを踏まえた今後のサービス・業務改善の取組について

来所した求職者に対して、「手ぶらでは帰らせない」を合言葉に、フロアコンシェルジュの強化、求職者マイページ登録に関する周知、窓口対応の見直し等を図り、安定所利用におけるメリットの周知徹底を行い、職業相談件数、職業紹介件数の増加に繋げていく。

また、求職者担当制の重要性について、相談員に対して周知徹底するとともに、求職者の選定、アプローチ、支援方法の検証しながら当該業務推進を図る。

(4) その他業務運営についての分析等

新規求職者が増加する中、紹介率及び就職件数が減少となってしまったことについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による新規求職者の増加と併せ、コロナ禍の再就職意欲の低下が考えられるが、加えて企業サイドの募集・採用計画の抑制等からの求人件数の減少もあった。

この収束時期の見通しが立たない新型コロナウイルス感染症拡大の中、如何に、求人件数を増やし、求職者への再就職意欲喚起を行うかを検討するとともに、併せて、一人でも多く再就職に結びつけることができるよう、職業相談窓口におけるマッチング支援の強化である必要と考える。

2 総合評価 (※)

標準的な成果

※ 業務量や業務の特徴などが同じようなハローワークとの比較による評価

3 マッチング関係業務の成果（主なもの）

	就職件数	充足件数 (受理地)	雇用保険受給者 早期再就職件数	紹介率	正社員に結びつ いた就職氷河期 世代の件数	公的職業訓練 修了3ヶ月後の 就職件数	正社員求人数	正社員就職件数	人材不足分野 の就職件数
実績	2,636	2,648	1,158	94.9	202	207	14,618	1,146	665
目標	2,989	2,626	1,193	103.7	166	209	14,130	1,242	613
目標達成率	88%	99%	97%	91%	121%	99%	103%	92%	108%

※ 「目標達成率」は年度当初に設定した目標値に対する達成率